

# 全国棚田サミット 維持管理へ知恵を

浜野浦棚田保全組合長

2015年10月22日 13時29分



浜野浦棚田保全組合長の松本正弘さん。サミットに向けてボランティアとともに種をまいたソバが、所々白い花をつけ始めている＝玄海町の浜野浦の棚田

夕日と棚田が織りなす絶景で有名な「浜野浦の棚田」。田植えの時期には多くのカメラマンが訪れる撮影スポットとして人気を集め、2007年には静岡県のあるNPO法人が選ぶ「恋人の聖地」にも認定された。その一方で、浜野浦棚田保全組合組合長の松本正弘さん（63）は「今後は棚田を維持、管理していくのが難しくなる」と語る。人々を引き付ける、美しい棚田は今、大きな課題に直面している。

浜野浦の棚田は大小283枚あり、総面積は11・5ヘクタール。傾斜地で段々になっているために大型の機械が入れず、手作業が必要な場所があり、転落の危険も伴う。「並大抵の手間ではできない」と松本さんは話す。

平野部の田んぼと違い、草刈りや田おこしなど通常の作業に加え、さまざまな管理や苦勞が伴う。カニがつついた穴から水が漏れることもある。田んぼに水を張った後は土が乾燥しないよう毎日見回りをする。大雨などの災害時には石積みが崩れて補修が必要になる。手入れが行き届かなくなった棚田周辺には雑木が生い茂り、収穫時期にはイノシシ被害にも悩まされている。

組合員は当初18人だったが、高齢化や後継者不足で現在は13人に減った。棚田サミットで、松本さんは第1分科会に参加する。「全国から集まる仲間から、知恵を借りることができれば」と話す。

組合員は当初18人だったが、高齢化や後継者不足で現在は13人に減った。棚田サミットで、松本さんは第1分科会に参加する。「全国から集まる仲間から、知恵を借りることができれば」と話す。